

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高見 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

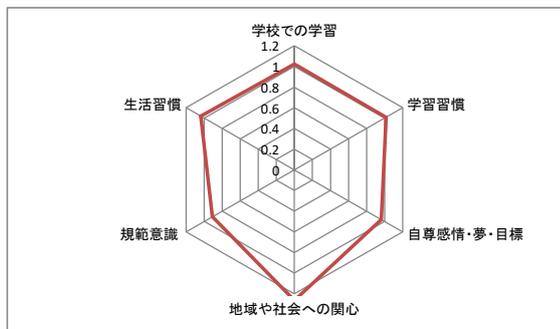
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率であった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の効果を考える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題や漢字を文の中で正しく使う問題などの一部に、正答率の低いものがあった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率であった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題の正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	全国平均と同程度であった。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	除法で表すことができる二つの数量の関係を理解しているかを問う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	直径の長さと同程度の長さの関係について理解しているかを問う問題の正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率であった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める問題の正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率であった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家で学校の宿題をしている割合は全国平均を上回っているものの、家庭学習を1時間以上している割合は、全国平均を下回っている。宿題以外の自主学習を充実させる取組を進めていく必要がある。 ・「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の質問については、全国平均を下回っている。今後、さらにノート指導に力を入れていく必要がある。 ・「地域や社会への関心」に関する質問項目については、全国平均を大幅に上回る結果となった。地域の祭りや催し物等に興味をもって参加している児童が多いことが分かる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・「わかる授業」を意識した授業展開を継続する。(学級)
- ・学校で統一した「話型」や「ふりかえりカード」をもとに、「書く力」や「説明する力」の育成を図る。(全校)
- ・算数科・理科において、児童がより理解を深めることができるように、TT指導や専科指導の充実を図る。(学年・学級)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学年×10分間の家庭学習について、全職員で家庭学習(宿題)の内容・量等について共通理解を図る。
- ・各学年の実態に応じた、家庭学習(宿題)に取り組みさせ、点検(評価)を徹底する。
- ・「高見中学校区で目指す児童・生徒の10のすがたと取組」を保護者に配布することにより、小中・家庭・地域で連携して、系統的な一貫した指導に当たる。